

Mado窓



教授就任のご挨拶と診療科の紹介

北里大学医学部産婦人科学（婦人科学） 恩田 貴志

平成23年10月より、医学部産婦人科学（婦人科学）教授を担当しております恩田貴志です。産婦人科学教授には、海野信也教授が就任しておられましたが、今回海野教授が産科学教授となられ、私が婦人科学を担当させていただくこととなりました。

北里大学病院の婦人科は大きく分けて、腫瘍班と生殖班があり、腫瘍班では子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍の治療や開腹を要する子宮、卵巣の良性腫瘍の治療を行い、生殖班では、不妊症の治療や、子宮、卵巣の良性腫瘍の腹腔鏡下手術、子宮外妊娠の薬物治療などを行っています。私自身は、腫瘍が専門であり、前任地の国立がん研究センターでは10年以上の間、悪性腫瘍患者さんの診療を担当して参りました。

私がこれまで力を入れてきたのは、臨床研究や臨床試験です。臨床研究では、卵巣癌および子宮体癌の症例に対して、予後改善を目指して、骨盤のリンパ節と傍大動脈のリンパ節の摘出を積極的に行っていました。リンパ節の転移の病理診断および治療成績をもとに、リンパ節転移が予後に与える影響などを解析いたしました。また、リンパ節郭清で転移腫瘍を摘出することにより、あるいは個々の症例の転移の分布に応じた適切な追加治療を行うことにより、リンパ節転移例でも良好な予後が得られることなどを示してきました。ただし、リンパ節郭清後には、リンパ浮腫などの合併症、後遺症が認められ、QOLの低下をもたらす可能性があることから、転移の可能性の高い症例には徹底的に郭清を行い、可能性の低い患者さんでは省略していく、といった個別化の

基準を設けてリンパ節郭清を行っていきたいと考えています。一方、臨床試験としては、JCOG (Japan Clinical Oncology Group) という臨床研究グループに所属し、研究を行っておりました。中でも、私が担当しているのは、進行卵巣癌に対して、手術に先行して化学療法を行う術前化学療法の研究です。最近5年間は、最初に手術を行ない後に化学療法を追加する標準治療と、術前化学療法を行った後に手術を行ない、さらに化学療法を追加する新規治療の2群に無作為に割り付けて、その治療成績を比較する第III相比較試験を全国の大学病院やがんセンターなど38施設で行っており、卵巣癌治療の新たな標準治療の確立に向けて研究を行ってきました。2011年10月に、症例の登録が終了し、現在は症例の経過観察を行っています。

北里大学は非常に患者さんが多く、全国の大学婦人科の中でも悪性腫瘍症例数は上位に位置しています。症例数はがん専門病院にも匹敵いたします。この豊富な症例を最大限に生かして、今後も臨床的研究や臨床試験に取り組んで参ります。

最後になりましたが、今後は産科の海野教授や産科、婦人科スタッフ一同協力し合って、これまで以上に充実した産婦人科診療体制を築き上げていきたいと考えております。

皆様のご協力、ご支援をお願いし、私のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(おんだ たかし：婦人科学 教授)

「相模原ルール」の運用について



救急外来主任 島田 謙

日本全国で救急医療機関の減少や救急車の不適切利用、夜間当番病院へのコンビニ受診、モンスターペイシェント（若者言葉で言い換えればDQN患者）、勤務医の疲弊など、救急医療の現場では様々な問題が生じています。新聞記者が好んで使う「たらいまわし」（この表現、私は大嫌いですが…）も救急医療の問題の大きな一つです。新聞の論調でいえば「たらいまわし」＝“受入拒否”で当直医が手術中や処置中等受入が物理的に不可能であっても一律に“受入拒否”を意味する「たらいまわし」と書き叩かれてしまいます。

一方、平成23年に相模原市で救急搬送された年間約29000件のうち、93.6%はすみやかに搬送されています。しかし、全体の6.4%にあたる約1900件が搬送先の病院がスムーズに決まらず、搬送困難になっています。あなたの家族、そしてあなた自身の「もしも」のときに、「たらいまわし」にあってしまうかも…!?この状況を改善し市民のより大きな安心を実現するために、救急搬送を担当する相模原市消防局、二次救急医療を担っている相模原市病院協会、そして最後の砦である三次救急施設の北里大学病院救命救急センターの三者が、相模原二次救急医療運営委員会の場で話し合いを進め救急医療での「相模原ルール」の合意に至りました。

神奈川県が策定した“神奈川県傷病者の搬送及び受入れの実施基準”において、受入れ医療機関の確保に関しては地域の実情に応じて具体的基準を定めることになっています。いわゆる「たらいまわし」を防止することを目的としています。休日・夜間当直時間帯において（通常の診療時間内は適応外です！）緊急性の高い重篤症例、脳卒中疑い、心筋梗塞疑い、外傷、熱傷、中毒、急性腹症、消化管出血、更に専門性の高い小児、四肢切断等（これ以外は適応外です！）で4回以上医療機関に断られた、または現場滞在30分以上経過した場

合「相模原ルール」が適用され、救命救急センターが一時的に傷病者を受入れ、軽症・中等症と判断された場合は必要な処置後、当日の二次当番病院へ転送させるという取り決めです。二次当番病院は例え満床でも救命救急センターからの転送依頼を断わることはできません。二次当番病院が救命救急センターからの依頼を断った場合、そこでこのルールは一旦中止し、検証を加えることになっています。（そうでないと救命救急センターが軽症から中等症の患者でパンクしてしまうからです。）

以上のように市民病院を持たない唯一の政令指定都市、相模原市では救急患者が迅速に医療を受けられるよう、更には緊急性の高い患者の生命を守るため、地域の救急医療機関がお互いに協力・連携して救急患者を受け入れるため日々努力しています。

救急医療は「社会資源」です。石油やレアアースの埋蔵量が限られているのと同様に、救急車、救急救命士、医療機関、医師や看護師などの救急を担っている人・物の数は、決して無限ではありません。医療は“限られた”「社会資源」であることを理解の上、相模原市民の大切な「社会資源」である救急医療の灯を消さないために、市民一人ひとりが良識をもって、適切に利用していただければと思っています。（なぜならば、相模原市の年間救急搬送件数約29000件の実に半分以上の15500件が軽症なのです！）

（しまだ けん：救命救急センター部 外来主任）

北里大学病院リハビリテーションセンター部へ ようこそ

係長 辺土名 隆

北里大学病院リハビリテーションセンター部は、平成11年5月に総合リハビリテーションセンターとして開設されました。併設の心臓リハビリテーション室と合わせると、脳血管・運動器・呼吸器・心大血管の各疾患別リハビリテーションを施設基準Ⅰで全て行える、文字通り総合的なリハビリテーション施設と言えます。

スタッフは現在リハビリ医師6名、理学療法士12名（うち2名は心臓リハビリ専属）、作業療法士5名、専任看護師5名（うち3名は心臓リハビリ所属）、看護助手2名、事務2名が在籍しています。各スタッフは、病院の理念に基づき「臨床」「教育」「研究」を軸とした業務を行っています。以下にその活動をご紹介します。

1. 臨床

当センターにリハビリを依頼される患者さんは年間約3000件に及びます。病院の診療日に加えて、連休・年末年始なども積極的に治療を行っています。理学療法士・作業療法士は、各チームに所属して治療に当たっています。

【中枢チーム】神経内科・脳外科病棟に入院されている患者さんのリハビリを行っています。機能訓練はもちろんのこと、病棟でのADL訓練・看護師指導にも力を入れています。

【整形チーム】抜釘以外の術後患者さんの多くはリハビリが依頼されます。特に、股関節・膝関節などの人工関節置換術後、前十字靭帯やアキレス腱などの再建術後、脊椎手術後などはクリティカルパスに沿って術後1日目の離床より介入し、2～3週間後の自宅退院を達成しています。

【呼吸・救急チーム】ICU・救命救急センターでの急性期呼吸理学療法や、離床業務が中心です。ICUではほぼ100%、救命救急センターでも8～9割の入院患者さんのリハビリ依頼があり、各種生命維持装置やドレーンなどを装着したままでのリハビリを安全かつ積極的に行っています。また、COPDや肺がん周術期の呼吸理学療法については外来で治療を行っています。

【小児チーム】小児病棟・NICU・PICUに入院している小児患者さん対象の呼吸理学療法、運動発達遅滞や先天疾患患者さん対象の外来フォロー、装具・座位保持装置・車椅子の作成など、活動は多岐に渡ります。外来の患者さんについては近隣療育施設と連携を図りながら、紹介業務も行っています。

【フロアチーム】上記以外の診療科からの依頼を中心に、主にリハビリ室での治療を担当しています。

2. 教育

学生教育としては、北里大学医療衛生学部の学生を中心に、実習を行っています。院内に対しては各病棟からの要

望に基づき、トランスファー・歩行介助など看護師対象の勉強会を、院外に対しては近隣病院・施設のリハビリスタッフを対象とした勉強会も年2～3回開催しています。これら教育業務については、今後も可能な範囲で積極的に行っていく予定です。

3. 研究

臨床業務で得られた様々なデータをもとに年間約20件の学会発表を行っています。昨年度は日本理学療法学会、アジア作業療法学会、呼吸療法医学会、集中治療医学会、東日本整形災害外科学会、心臓リハビリテーション学会、日本循環器学会などに参加しました。

4. その他

上記の業務以外に、リハビリ関連事業として膝教室、転倒予防教室、糖尿病教室などを開催し、多くの一般市民の方のご参加をいただいています。膝教室は、変形性膝関節症の予防を目的とした公開講座で、相模大野・相模原・橋本・座間・厚木・津久井などの公共ホールをお借りして、医師・看護師・理学療法士が講義を行い、その後希望者には当院で開催される個別評価・指導の会に参加していただいています。詳細な運動機能の評価、レントゲン写真に基づいた医師の診察、それらをもとにした個別でのフィードバックが大変好評で、これにより膝痛や可動域制限が減ったとの結果も出ています。

このように我々の業務は院内・院外を問わず多岐に渡っており、日々多忙を極めます。今後は、2014年の新病院開院に向けて、北里大学病院の一機能を担えるようスタッフ一同、力を尽くす所存です。関係各位の皆様におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

(へんとな たかし：リハビリテーションセンター部 係長)



“内科事前予約サービス”の お知らせと注意事項について

北里大学病院 患者支援センター部

日頃より当院の病診連携業務にご理解とご協力をいただき御礼申し上げます。

以前よりお知らせさせていただいているとおり、当院では内科に限定して事前予約サービスをしています。今回は、事前予約サービスのお申し込みの際にご協力をお願いする事項について改めてご案内させていただきます。

1. 患者IDの二重登録防止の観点から、当院の受診歴を確認させていただきますので、予め患者さまに当院の受診歴の確認をお願いします。
2. お申し込みの際は、診療情報提供書（循環器内科以外）の送付（Fax）をお願いしております。
3. 消化器内科は、北里大学東病院でも診療をしているため受け入れ先は事前に送付された診療情報提供書の内容を元に判断させていただきます
4. 血液内科は、受け入れを決める際に事前に診療情報提供書の他に血液検査の結果の送付を併せてお願いしております。
5. 来院時のご案内として、受診日に“事前予約サービス”扱いでの受診であることを初診受付で必ずお申し出されるように患者さまにご説明をお願いします。
6. 患者様が紹介元で入院中の場合は、必ずその情報をご提供ください。

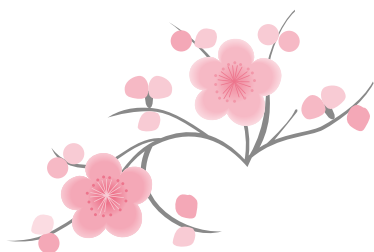
ご面倒なお願いばかりいたしました。が、予約枠には比較的余裕がありますので引き続き各医療機関からのご予約のご連絡をお待ちしております。

また、本件に係わるお問い合わせは、下記の担当までご連絡をお願い申し上げます。なお、当広報誌“Mado窓 No.90号”にも記事を掲載しているのと当院のHP (<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>) でも広報誌“Mado窓”や外来担当表を掲載しておりますので併せてご活用ください。

事前予約サービスの申し込み・問い合わせ先

北里大学病院 患者支援センター部 病診連携担当

- 内科紹介患者事前予約サービス依頼 電話 042-778-9988
- 内科紹介患者事前予約申込書送付先 Fax 042-778-9599



〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学病院 患者支援センター部
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>
E-mail / shoukaiw@kitasato-u.ac.jp